

還暦女子はまだ
だガキだった



いもねえさん

コロッケ買った～

揚げ物の売り場でコロッケを買ってしまった。4個入りのおやつコロッケというもの。
コロッケなんて買ったことなかったのになぁ。。。

いつもいっぱい作った。コーンなんかを入れてカサ増しして。ジャガイモ1袋は全部使って。
お腹をすかせた子らは形にする前から口に入れ、今日ははこのままでいいんじゃない？とかなん
とか。

早く食べたかったのだろう。

私のは、コンデンスミルクを入れた少々甘い、小林かつ代さん流。

そのままでももちろんおいしい。

だいたい20個ぐらいは作っていた。

仕事から帰ってから作るのも全く苦ではなかった。むしろかんたんな料理だった。

私自身コロッケ大好き。

でも一人じゃなぁ。。。

小さめのコロッケだったし、買ったのはいけれど、食べるのも1日1個。

まだ冷蔵庫にあると思うと、、、もう買うまいと思う。

みんなで揚げたてを食べてた頃ってなんであんなにおいしかったんだろうね。

なかなかいいよ老眼鏡。

ネットで買った老眼鏡。

その届く早さにビックリ。

さらに定形外郵便での配達方法を選択したのだから送料無料。

しかもポイント10倍！

もうここら辺で、私などは満足しているというものだ。

新聞の集金と配達を兼ねてきたオジサンが、ポストに何か入ってるよ、本みたいなもんが。訪問入浴に行こうと着替えていた時だったから大急ぎ。

早ッ。老眼鏡来たんだー！

二つ注文したのをかけ比べ、理知的な落ち着いたブルーブラックの方をポケットに入れた。

家に帰ってゆっくりと、二つを比べた。

両方ともいい感じ。

花柄の方は顔が負けそう、、、持ち歩くのはブルーブラックの方にしよう。ケースもコンパクトで丈夫そう。

それにしても、老眼鏡をかけて鏡をみるのは、ガッカリだね！

よく見えすぎて、こんなにも老けてしまったのかと。。。。。

あんまりよく見えないほうがシアワセだね。

視力いいの？と若い男性に聞いてみた。いいですよ、シワまではっきりみえますよ、アッ、そう。

ボランティア満員！

ボランティアはもう満員で受け入れをお断りしていると。

特に連休を利用して、ボランティアに行こうとしている方は受け入れができませんと。

ガレキを整備してやっとできた1本の道路に車が渋滞している写真が新聞に載っていた。

ボランティアに行ってもやる仕事がなく過ごした人もいるという。

遊び半分にボランティアに行く人などいないだろう。

何かお手伝いしたいという気持ちが現地に向かわせるのだろう。

学生や若い人に多額の義援金は出せない。でも元気と体力はある。

一方でボランティアに来てほしい、家の片づけを手伝って欲しいと願っている被災者の方も多いと聞く。

体力のある若い人の気持ちを無駄にしてほしくない。

インターネットはもう復旧したのなら、その交通整理をインターネットでできないのかと思う。

司令塔はどうなってるのだろうか。

もったいないなー、若い人の気持ち。

若い人がいるだけで元気が出るということもある。

一方で震災以降休みがとれないクタクタの現場の職員もいる。

好意を申し出て断られるって、若い人にどう映るんだろうか。

「ボランティアに行きたい人はいっぱいいる、でも満員ということで、受け入れられないんです、」と

メディアは被災者にぜひぜひ大きく伝えてくださいね。

日本の若者は被災者をけっして見捨てていないのです。支援したいと思っていますのです。

一人暮らしになって、私が息子の体力にいかに頼っていたかがわかるの。

軽々と持ち上げていた物、私がやるとどれだけ体力が必要でしょう。

何倍時間がかかるでしょう。

ボチボチやるしかありません。

でも現地はボチボチよりも若い人の力を頼りましょう。

義援金も必要ですが、重機によらない人の手がどれだけ助かることでしょう。

娘が母の日に、かんたんな耕運機をプレゼントしようかと思うんだけど、と言ってくれた。残念ながら、畑をやる気力も体力もないの。去年の夏から完全放棄の荒れ放題。

それでも天気が良くて少し草を刈ってみようかという気になった。まずは、鎌を買いに。鎌がよく切れないと仕事はかどらない。もうどこから手をつけていいのやら、、、かがむ所さえないのだから。草の下にまた草や根。やっと土が見えた。苗箱に15杯集めて、やっと3メートル四方ぐらい。それで本日は終了。野焼きは禁止なので隅っこに積み上げる。

そういう話を電話で長女に話した。長女はプランターでハーブや薬味を栽培しているみたい。都内でマンションに住む長女は、3メートル四方でいいんじゃない？と。

そういえば、川崎でも世田谷でも市民農園の抽選に当たって畑を借りていた。何回目かだけどね。
たしか一家庭4メートル四方ぐらいだったような気がする。考えてみたらそこが私の畑のスタートだった。。。

もうちょっとだけ草を刈って、今度は鍬で耕していかないと。

草を分け入って、もう少しだけ草を刈ることにした。

3メートル四方にしたって、まわりをレンガで囲むぐらいはやらないと。

沖縄は梅雨入りしたというし、この連休中に耕すところまではやっておきたい。

せっせっせと草を刈る、ギョッ！！

長い羽が見えた。

キジが卵を温めている。この時期は時々あるんだけど、畑の中で温めなくてもいいじゃないのよ。

草むらだと思ったのね。

気をつけないとノラネコもいるよ。ノラネコはじっとしてる。私を見ると逃げていく。

先日は帰宅した時、羽がいっぱい散らばっていた。多分ヒヨドリだ。

見たくない本体がなくて安心はしたけれど、きっとあれはネコにやられたんだ。

キジはよく我が家がお庭、という顔をして周辺を歩いている。

朝早くからケンケン、バタバタというのはキジだ。雄が鳴くらしい。

ツガイで歩いているけれど、そういえば最近は雄だけが歩いているからフラレたのかなと思ってたけど。。。

雌はしっかりと卵を温めていたのね。

ケンケン、と鳴いて、俺はこの近くにいるよ、と安心させているのだろうか。

それとも、オイ、どこにいるんだ？と捜しているのだろうか。

それにしてもすぐ近くまで草を刈っているのにビクとも動かない。

それを見たらそれ以上は草は刈れない。そこでストップだ。

刈った草を尾が見えないように、その上にかけて。ついでにネコに見つからないように、もっと草をかけた。

いったいつから卵を温めていたのだろう。。。

25日ぐらいで卵はかえるというから、どうぞ、ネコにやられませんかように。。。

暴風雨になってきた。それでも雌は動かないで卵を温め続けるんだろうなあ。

*息子が都内で学生時代に家のまわりにキジがいるという話をしたそう。知人は「エッ、絶滅したんじゃないの？」と言ったそう。そうよね、家でキジが見られるなんて、都内ではなかなかないよね。真っ白のオイサギも優雅に歩いてるよ。

古着は着こなすものだと思う。

被災地へ古着を送られても、扱いに困ると聞く。まったくその通りだと思う。

私の考えは、子供服以外は送らない方が良くと思う。

新品の服、新品の下着に限ると思います。

古着というのは、服に対する価値観が大きくて、難しい。

もう着れないと思う人もいれば、まだまだ着れると思う人もいる。

捨てられなくて、、と言ってとっておく人もいるし。。。

福祉バザーで服の仕分けを手伝ったことがあるが、不用品のようなものだったり、ゴムが伸びきっていたり、

汚れがそのままだったり、あなたなら着ないでしょ、というものも多かった。半分ぐらいがそうだった。

もう手はカサカサになるし、あれにはまいったなあ。

何人もでやったけれど、ものすごく時間がかかった。ボタンがとれていたりして処分品にした物も多かった。

先日、よかったら使って下さいとNPOの作業所にいただいたものも、雑巾にもならないというものだった。

でも、その人は、今まで家に持っていたものだし、まだまだ使えると思ったから持ってきたんだと思う。

私自身は古着は好きだ。でも、服を選ぶように、古着も選びたい。

古着は自分で選んで着こなすものだと思う。

材質だって進化する。

とっても重い服は肩が凝る。自分の家の不用品は自分で処分するのがいいと思う。

自分でリサイクルショップにもっていくとか、オークションに出してみるとか。

そのお金を義援金にまわしましょう。

子供たちが幼児の頃、玉川の高島屋の掲示板のような所に、子供服お譲りします、というのがあった。

近かったし、電話をして伺った。菓子折りを持って。

大きなお宅で、この服は1万円以上したとか何とか、普段着れそうかなーなどと思いながらも、まあいいやと思った。

でも帰ろうとすると、ダンボール1箱だったが1万円で、と言われた。

靴もありますが、と天井から玄関までの作り付けのゲタ箱を開けようとされたが、革靴は履きませんから、と辞退した。

後にはひけなくて、菓子折りと1万円を渡して帰ったが、何とも後味が悪かった。失敗したな～我が家との生活の格差がありありだった。

我が家の子供が保育園で着るような服ではなかった。

リサイクルショップで選んで買った方がずっとずっとよかったし安くついた。

そのように考えると子供服を被災地に送るというのもちょっと考えものだ。

古着は自分で選んで、着こなすのがいい。

被災地には送らない。これが私の結論です。

私、今年もバザーで買いまくりますよ！

還暦女子はまだガキだった。

去年60歳になり年金を受け取り始めた私。

年金をもらうという言い方はイヤだ。だれからもらうの？やっぱり受け取る、又は返してもらう、じゃない？

末子が今年大学に進学したし、パートで仕事は続けている。

学費って高すぎだよー、教授陣多すぎない？教授陣や設備が充実していますというけれど、それってやっぱり学費にはねかえってくるんでしょ。年間168万円の学費。。。。もちろん年金額より高い数字だ。

それプラス生活費がかかるわけだから。

人生設計、思うようにはいかないもんだ。いろんなことがありすぎる。

こんなはずではなかったんだけど。

でも力づけられた！

「75歳まで社会の役に立つ存在でいたい」と考えて人生設計を立てていました。でも、この震災で、5年間延長することにしました。」キャーッ！スゴイ！

女性目線で復興に活力をと5年計画でプロジェクトをスタートさせました、と。

女子教育奨励会理事長の木全ミツさん。74歳。

まだある。

スカイツリーのデザイン監修をされた彫刻家の澄川喜一さん。79歳。

「まだまだ僕は子供ですから。こうやったら面白いんじゃないかというのが、僕たちの仕事なんですよね。」

話の一言一言に重みがあり脳の中はいったいどうなっているのだろうと。

それに、僕は子供？

じゃあ私は還暦女子どころか、女の子だね、ガキだ。

やっぱり日本を支える人はみんな元気だ。私もまだまだ勉強しないと。

いつでも仕事は引退してもいいと、後ろ向きに考えていたけれど、

いつでも若い人に譲ろうと考えていたけれど、

好きな仕事だから、もうちょっとさせてもらおうかな、私はまだ子供だし。

このところの書類の多さ！

書類が多いよ～

息子がアパートを借りる時も書類が多かった。添付書類も多かった。

今度は奨学金の申請の書類だ。

一応確認のため、書類を送って寄越した。

老眼鏡をかけても字が小さい。理解しながら読むのに2時間もかかった。かかりすぎだ。

私がそろえる書類を書き出す。

私が仕事勤めで若ければすんなりとすすむのかもしれないけれど、

年金証書が2種類、源泉徴収票は3枚。

おまけに、保証人となる私の姉は年齢がいきすぎていて、妹になってもらったが、無職と、ややこしい。

息子は条件がややこしくて何回も聞きにいったらしい。

ホント、お世話かけます。

長女の時は、私も10年若く常勤だったしスムーズにいったけど。。。下に弟が3人いたし。

今はデスクワークではないし、書類なんかは読むのもめんどうになってしまった。

封を開けない手紙も又たまり始めた。

字は横につながる草書みたい、、、筆圧なくなったなあ、、、、

よかったのは、息子が我が家の収入の少なさをあらためて知ったことかな。

カラス、落ちてこないでよ！

カラスの被害が多く、捕獲作業をすることになったらしい。
ゴミを荒らすのも困るけれど、カラスに食べられスイカ全滅という話も聞いたことがある。

電線に並んだカラスは気味が悪いし、
なんで？と思うぐらい頭上を群れのように飛んでいる時もある。
よくみると木の枝にたくさんのカラスが止まっていることもある。映画のシーンにありそうな。
。。。。

カラスの捕獲には銃器をを使用することもあるとのこと。
銃器を使用しない地域が示されていたが、我が家はその地域に入らなかった。
ということは、、、、
打たれたカラスが頭上に落ちてくることもあるってこと？
キャーッ！！

以前、玄関のドアを開けようとしたらヘビが私の頭をかすめて落ちてきたことがあった。
私もヘビもしばし固まった。あんなのはもうイヤ！

バーン、と音がし始めたら家の中に入ろうっと。

今日の料理、チャンチャカチャカ。。。

久しぶりに手に取った「今日の料理」というNHKのテキスト本。

昔はたま〜に買っていた。

平成5年とある。故逸見政孝さんが料理を食べている写真が載っていた。

今年大学生になった息子が平成4年生まれだから、きっと育児休業中に買って読んでたんだね。

18年も前の本だ。

今のようにネット環境もなかったし、本屋まで車で30分かかった頃だ。

写真はあんまりおいしそうに撮れていないなあ。。。レトロな雰囲気。

でも見逃していたというか、あらためてなるほどと思う部分はいっぱい。

ヒントもいっぱい。

ひき肉のもとを沢山作って小分けをして冷凍。いいねー。

おからを買ったら、小分けして冷凍。なるほど。おからは安いけど一袋が多すぎだもんね。

ごぼうやレンコンはさっと湯通しして冷凍。冷凍のまま煮るととてもやわらかい。時間も節約できる。

他の本で見て、先日ごぼうを冷凍のまま炒めただけなのに柔らかくできたよ。

こんな工夫は昔から言われてたんだね。

我が家は冷凍するまでもなくいつも食べきっていたから、頭の中に入っていなかったんだと思う。

記事の中に、私は材料も自分で選びます、という料理人の方がいて、野菜がザルに並んでいた。

なるほど、とってもキレイで新鮮そう。

でも、虫食いもないきれいな野菜。

いつも思うんだけど、なんか傲慢な気がするんだよねー。

野菜も自分で作ります、ならわかる。

じゃあ選ばれなかった野菜たちの行方は???

お客ー料理人ー生産者、みんなが横並びでいいじゃないかと思う。

そのザルに曲がったきゅうりがあってもいいと思うけど、曲がったきゅうりはなかった。

そうすると、生産者は曲がったきゅうりは出荷できなかつたり、安く買い叩かれるということにならない？

私が手伝っているNPOの作業所では、レストラン、仕出し弁当、畑、加工、パンなどの部門がある。

畑で収穫できたものはレストランで使ってもらったり、販売したりする。

形の揃わないえんどう豆も少々虫食いの小松菜も、曲がったきゅうりもチーフの料理人の指導でおいしく仕上がる。

先日の間引き菜のかぶの葉の混ぜご飯、おいしかったなあ。。。

いつも野菜がいっぱい。おかげさまで満員御礼の日が続いている。

食べにきてネ！！

なんか気候が変！

去年の酷暑で我が家の菜園を放棄していたが、
少しやる気になってきたので、わずかながら始めた。
今日は、刈った後にほんの少しだけ耕した。
20回も鍬を入れると息切れ、ダメだこりゃあ。。。
かがんで根っこを掘り出すと腰が、、、

いつもなら毛虫がいっぱいで、連休にはものすごい毛虫がいたのに、今年は極端に少ない。
カラスノエンドウにいっぱいつくアブラムシもついていない、、、
土の中からカナブンの幼虫が出てくるものの数は少ない、、、
気温が上がらないからか、家のまわりの雑草もそんなでもない。
去年の夏は、完全放棄で、雑草で玄関から入れなくて、以来裏口からの出入りになっている。
雑草が枯れ草になって日光が当たらないからか、枯れ草を除いても新しい草もない。。。。
どうなってるんだろ。

農協で出会った知人は、タネを蒔いたけど気温があがらなくて雨が降るからタネがとけちゃったよ、
とタネを買っていた。
それなら私、これから蒔こうかなー、そしたらもっと草を刈らないとなー。
いやいや、やりすぎるとよくないと気持ちを静めつつ、サカタノタネでネットでタネをいっぱい注文してしまった。
「これからでもまだ蒔ける」というあのすごい魅力的な言葉。引き込まれてしまったよ。

声を出す。

一人でいると声を出さない。

連休中、どれだけ声を発しただろう。。。

でもこれは、私に限らない。

一人暮らしの若者だって同じだろう。

私が発したのは「よっこらしょ！」は何回もだけど、あとは、、、
電話でちょっと。

新聞のコラムぐらいいは声を出して読んでみようかと思ったが、最近のコラムは中身が濃すぎて、私自身のもつ言葉と隔たりがありすぎるので、スムーズに声が続かない。カタカナでつかえてばかり。

図書館で借りた本は声に出して読んでいると進まない。声を出すことに気をとられイメージがふくらまない。

サカタノタネの園芸通信をパラパラめくりながら、これいいんじゃない？とか草丈長すぎかな、とか、あえて独り言。

これって人が聞いたら気持ち悪いだろうな、、、

と思っていたら民生委員ですが、、、と外から声が。今高齢者の調査をしてみわってるんですが、こちらはご家族はお二人ですか？

いいえ、一人です。????

65歳以上の方は？、、、いません。私、あと5年で65歳です。

でも、その後しばしオシャベリをした。

なかなか話が合って楽しかったよ。

子供の日かー

スーパーに行ったら柏餅が山積みになっていた。

しょうぶの葉もあった。

子供の日かー。

柏餅が食べたい気分だったが一人で3個入りのパックは多すぎだ。

隣にあった赤飯を見て赤飯を作ろうと、ささげを買った。

何も考えず、帰ったらすぐに鍋に水を入れて一袋全部を入れた。

だいたい説明事項は読まない。でも老眼鏡で読んだら、その量はもち米1kgぐらいに対する量とのこと。

ストップするには遅い。だいたいにおいて1kgといたり、何合といたり、どっちかにしてよ！
一人アタマにくる。

でも昔は、そんなこと考えずに適当にやったにちがいない、と適当に入れてみる。

そしてさらに読むともち米に汁ごと一晩つける、とある。

今晚の夕食にはならないのかー。

一人で何のために赤飯を作るのかわけがわからないが、明日の朝用に炊飯器にタイマーをセットした。

東北の方では甘い赤飯があるそう。ローソンだったかな、甘い赤飯を販売したらそれから売れていくという。

少し小分けして砂糖を混ぜてみようっと。

100歳の大往生。

姉から電話で、叔母さんが亡くなったという。

100歳で眠るように亡くなったそうだ。

父の姉で、父が亡くなってもうすぐ10年になるが、父が亡くなった時、その叔母さんは、ねえちゃんより先に死ぬるやつがおるかー、と泣いて号泣していた。

父は末っ子で、その叔母さんは父のことをヒデ、ヒデとかわいがっていて、よく訪ねて来ていた。

父の名はヒデヨシ！

顔も似ていた。150cmの小柄な父よりも小さかった。

その叔母さんには7人の子供がいた。

父は末っ子で戦争から帰って来てからの晩婚だったから、私たち三姉妹はいとことはいえ、年が離れているし家庭をもったりしていたから、ヒデヒデと訪ねてくる叔母さんしかあんまり知らない。

その叔母さんは、にくめないワガママ女で、グチを言うため、私たちはあんまり知らないところをその話から想像していた。当然叔母さんが一番正しい人だと思うよね。子供の自慢はしていなかったね。

長男だけが早くに亡くなったが、他は皆健在。

とはいえ、みんな60歳はとうに過ぎていて、叔母さんにとっては、孫やひ孫やら、さらなる孫もいたのかもしれない。

夫亡き後は、その子らの家を転々と、タライまわりしていた。

どこへいってもワガママな性分で元気で働き者、次々と居場所を変える。時に父のところへ来て、ヒデヒデとグチを言って帰る。

そして最後に自分で選んだのが老人ホームだったという。

自分が希望した個室に入り、そこで人生を終えた。

家族葬だったそうだ。女性のお坊さん。簡素で感じのいい葬儀だったという。

100歳まで生きれば大往生、誰も泣いていなかったそうだ。

叔母さんの人生は終わった、、、私たちの叔父さん、叔母さん、すべていなくなった、、、安らかに眠って下さい。

なんともかわいい叔母さんだったのだ。